



小笠
原流

諸禮式階梯

全

9

4189





口 9
號 4189

禮道階梯

昆明開歲



七世女生...
 如...
 夫...
 人...
 浪子...

五節句由來

正月七日...
 七草...
 延...
 あす...



禮道借帛

二月三日
 生誕節のことし己
 とも子
 蓮を引る事ハ歳時
 記ニ曰ル小宮あり二月
 けドめて生れ奉れふ
 白くして清く三月三日
 是成るとて解る
 ちこ推れ花とゆり
 ひたし飲首病と治ま
 と皆邪氣をさしめて
 親族よりあそびめて
 よういをのぞめんと
 あり
 系ふ
 こちやふあふふ推の
 ちとよりふさくまふ
 あいふさるか



和漢障子

昆明淵藏

五月五日
 端午とも菖蒲まひも
 子家の軒端にまひ
 ぶあや先をさしはむ
 古書ふええきり
 内裏南殿のあふと
 ありねきとさる理
 歳時記ふ曰午日菖蒲
 とれて縁乃じ式ハ
 細末として通ふて
 飲陽を助け年と
 延せり
 系ふ
 このふさくふさく
 ねりいあやめ
 ちつちの
 けふさるか



豊道階梯

二

昆明淵藏

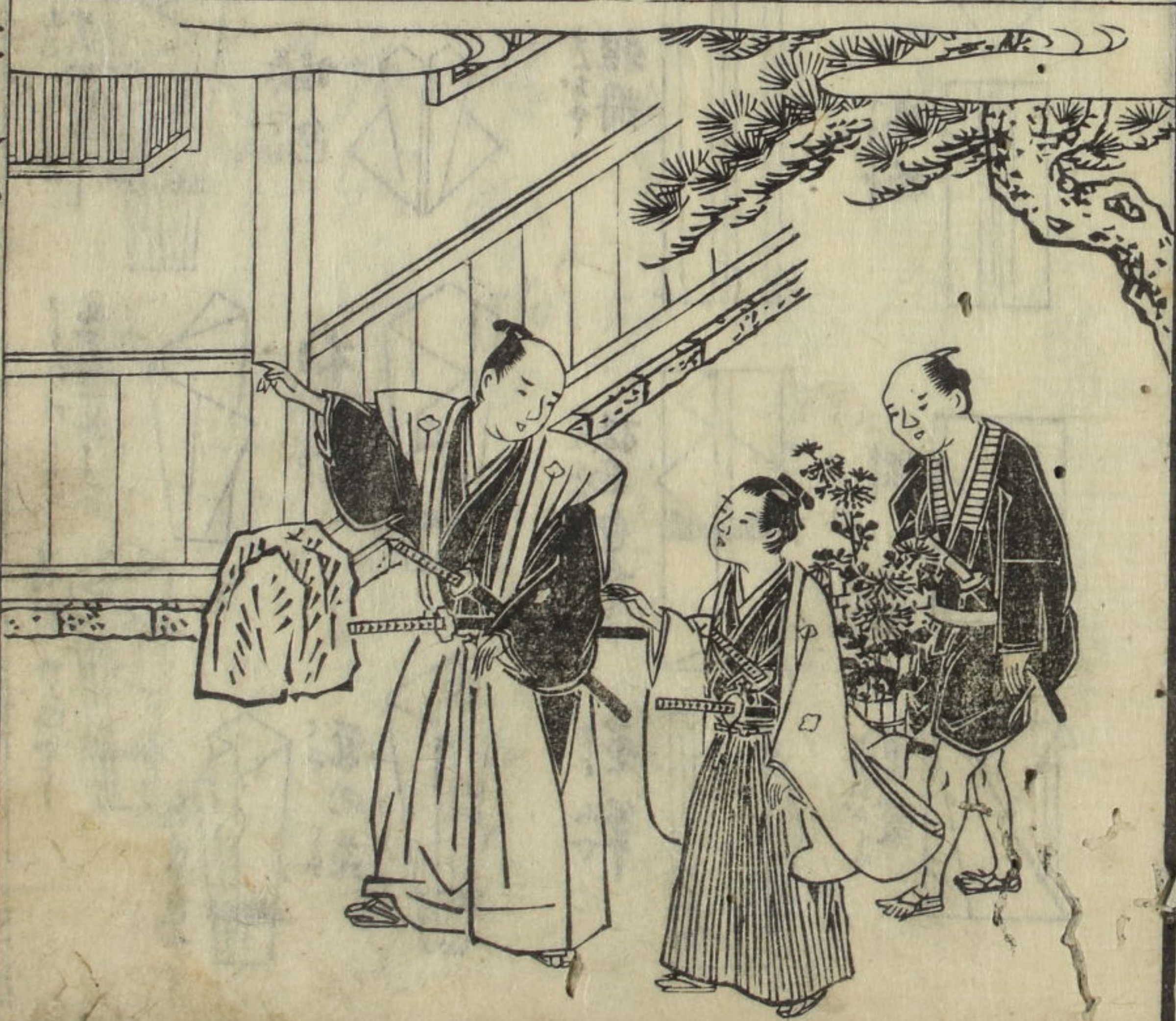
七月七日

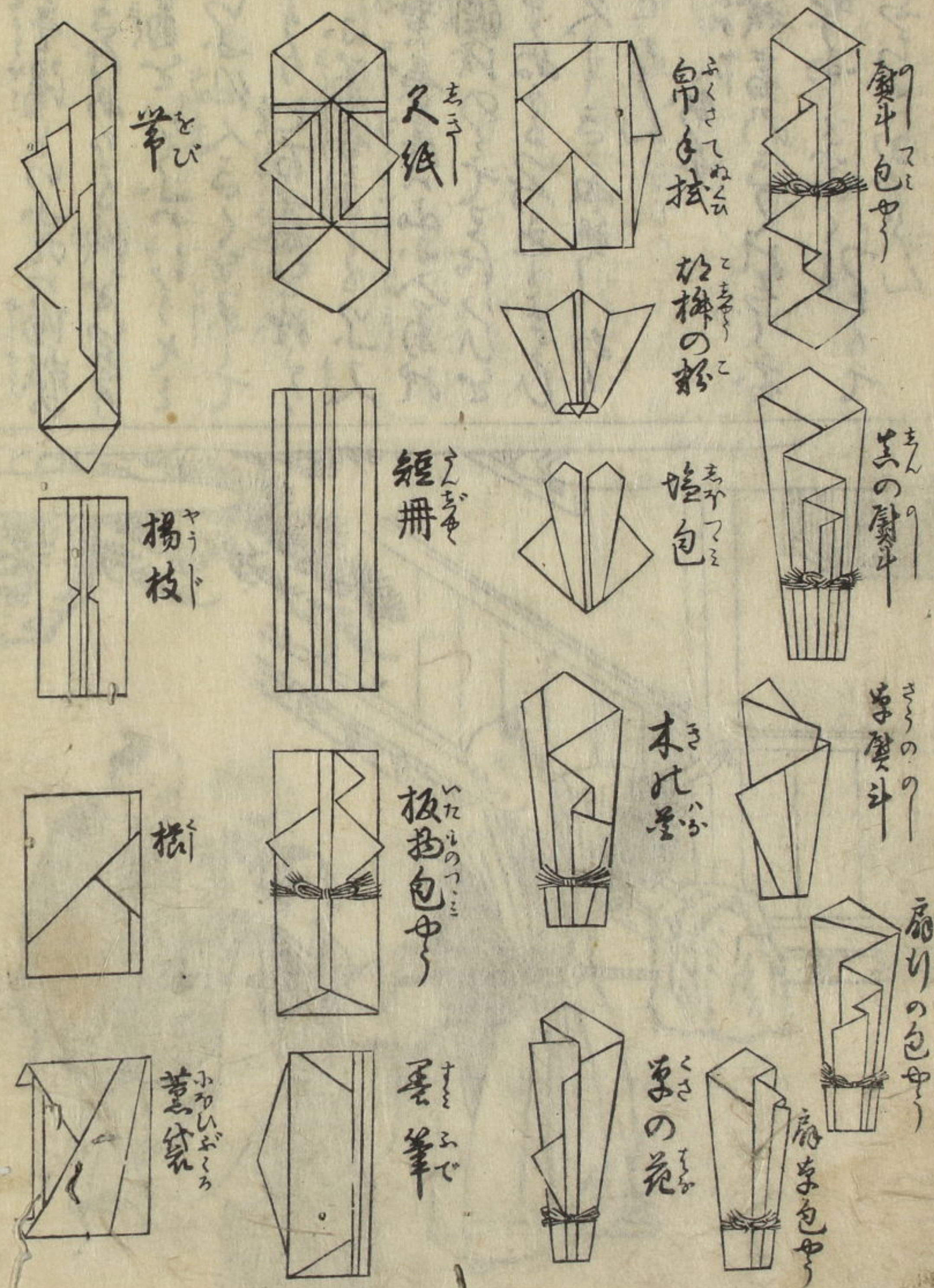
七夕といふ又宵夏も
ふと宵半牛織女
星あひまといふ女も
糸と針をふり酒
など使て甘き酒
とてまて今春秋
のそくやいさう
やきとつめの事
あひ ひま
えくも うめ
七夕 たみ
のい ちり
とほ



九月九日

重陽といふ九月の
ふたまたま候といふ
菊といふふけといふ
ふ他人といふを
より七言を
一ふ菊を
貴長房といふ入菊
酒のつてふい
まぬるつてふい
久しきぬあり
となん
あふ
我者乃といふれ
あふといふ
ふらといふ





諸禮之圖式



常路のまわけへまづはく
 むいたのちとつきのちのちにて
 わけたちてち又つくばひまの
 てくふさへべー

食禮楷様

大概食禮にけざるを扱ひ
 中にも市井と相も食礼の
 いふ一先と中へ聲をばして落
 はぬ所やうを嫌ひ中へ食あ
 所成作も事端を引も或は
 台際より上座不流さ人先
 寺にも要し後にもしふ

茶だいの茶い草もにとり
 茶を下に星天目ばを全
 てのびーおああゝ天目
 ばかり成てのびーかみ
 乃人い心あゝ

賣ハのまほさぬ内ホ
 そ通へ来る申座一としひ梅
 のまほせゆくまのみ臺に
 上てきけべート水蒸へくそ



孟戴解

きうき たいとも
 盃は盃をたて
 ちやて盃
 いた盃を
 ぬに申あて
 たりとけ 盃は下になれのも
 のをちやていとちになてい
 なくちやていとちになてい
 ちやていとちになてい



省はさむ所さむ



さる事^{こと}をい
者^{もの}ハ上^{うへ}空^{そら}へ
あ^あげめ^めす^すべ^べ一^{いち}は^はつ^つと^とせ^せて
い^いて^てさ^さあ^あり^りを^を懸^かへ^へさ^さげ^げれ^れと
な^なる^るべ^べ一^{いち}算^{さん}とい^いて^てく^くか^かす

此は毒かき食ひ物の菜も
 毒なくともふと嫌ふあり他
 大皿などへ各あり又喰ふこと
 もの浅くひも毒物と
 毒と禁むるたのめを衣て
 取きくひ菜も毒なかり
 毒は毒汁の中に入れて外の物
 中へは毒汁の中へ毒汁を
 毒汁の中へ毒汁を

け 称^いふ^やふ^ね 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 熱^{あつ}く^て 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 一^{いっ} 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 同^{おな}く^て 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ
 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ 食^くふ^ひ

A black and white woodblock-style illustration of a person, likely a woman, in traditional Japanese attire. She is seated, wearing a kimono with a star-like pattern on the upper left and a striped skirt. She holds a fan or book in her hands, looking down at it. The background is plain.

孝人のあまてふ麻はふべうに
 ちりともかりてあふさときん
 ちる半もあふさてかきあは
 つきむのあひたをや
 あふくを

又物

神



此^キ人^ハ一^ニ把^{マツ}余^ヲと云^フくも我^ハ
 りに^ニひ^テて^テ把^{マツ}乃^ハは^ニと^リち
 乃^ハは^ニと^リち^ハ乃^ハは^ニと^リち^ハ
 乃^ハは^ニと^リち^ハ乃^ハは^ニと^リち^ハ

照此



みるひう
 おのれの
 ひざろが
 少一もち
 かたせむぎさけぬ
 せうにすてまのうぬ
 なるふまへーばーめすまろ
 不よりやふもあまにておー
 あまてたれどー



飯つ
我ぐ



飯^いを^{かん}食^くふて^{かん}久^く登^{のぼ}る^る迄^{まで}の
本^{ほん}一^{いつ}あふ^{あふ}まんのい^いと^と唐^{やう}と^とわの
も^もよて^{よて}あ^あの^のう^うと^とつ^つす^すと^とや^やうて
右^{みぎ}れ^れに^にて^てを^をり^りす^すぐ^ぐふ^ふは^はべ^べ

乃松子松地
 乃松子松地

とろ飯とろき番さふをばさて

其物をも勿小控おく事
その

心
 子はや
 けあ
 同あか
 一

計えりの賣え成なりかも計えり入いて販はんを

之又けさほ^{うち}み^みも^いけ^るも

子屋うゑんをりけも三

度どを過すぐも人ひと度どふ利り之の

湯を人より先吞ヒトより

唐の物も蘇くふ事礼

梳仕也人楊枝などもよく

付心物と物心
ふつ　もののふき
ふ　え

汁すゐいこ板いねね銘あああののけけで

至ちき小こ串ぐし乃あ沁しも皮かわ目め下した一いち下したな

おく中
中酒
見合
なく春

時より土同く外へ噴出

大 たい 衆 しゅ

大舜ハ而孝リナル人
父ハ名イコセウトシテ二
カコシテ母ハ姁人
カハ又小孝リテ人
トモ大舜ハ孝リ
いたせりある時歴山ト云ふ
耕ハ父ハ不レカ孝ハ感
トテ大舜来テ田ヲ耕
多シ来テ田乃美シテ耕
作レテ汝ハ汝ナル人
さてその天下ハ汝
トバ堯帝ト名付タテ
那君ハ其婦トハ娥
中妹ハ女英トシテ
舜の孝リナル人
め一汝娘ヲ后ニシテ
天下汝ハ汝ナル人
孝リナル人ナル人



初はつめ年とし先せん禮れい道どうと

子之道也

長者ねと小松な之種さき之先

あゝ世の中わが身

はふふのひり

[illegible]

たくとをばさる

通に魚——天地の

今あり乾坤陰陽
 けんこんやう

おひ
お
れ
た
へ
湯
ふ
ろ

後漢の楊秉字叔節字
 德を字れて桓帝ふをされ
 三公の大尉に濱まをり忠
 洗くを桓帝を德れ
 君れも楊秉潔白り
 して丹漆を批するより
 大才潔とも納らるるわ
 楊秉は貧酒を飲す多
 とらふも又早く書を
 喜ひて二じ友人を近
 飲いて多くあふさの惑
 さるあり酒を飲なり酒
 人れををわたりを
 此す好ハ貪りす並け三
 乃ちて其の形とあり
 要して心で教警戒とする
 たり

男子志乃右往たんと志
女子志乃左往こむし
進退内外しんたいないがい
大小是尔たうせに
自然しぜん乃礼儀れいぎ之旨しゆく
威儀いぎ之教きやく惟ただ畏おそ弱じやく不ず

ちゝゝゝど礼へ還遜
 穉穉とる皆下る
 事なづ其程と
 知ぐされ謫ふ
 似川威儀ある

子路

仲由字子路孔子の弟子なり
 貧乏にして衣履も粗末なり
 藜藿と食ひて糲米を食ふ
 人爲ふ米とを玉に賣りて買ひ
 匣に價をえて後給して
 事なり
 孔子曰く子路は子路の事なり
 てハカと云ふ
 思ひと盡く老やと褒美
 一にまひたり



臨勉尾緒ふあぬ
 まゝのふのち
 和來はるる教情のふ
 似きるや男女
 席と別つこゆる

茶敬せん
 鸞鶴のふいもの
 人ふあを
 もれら
 らぬふれは

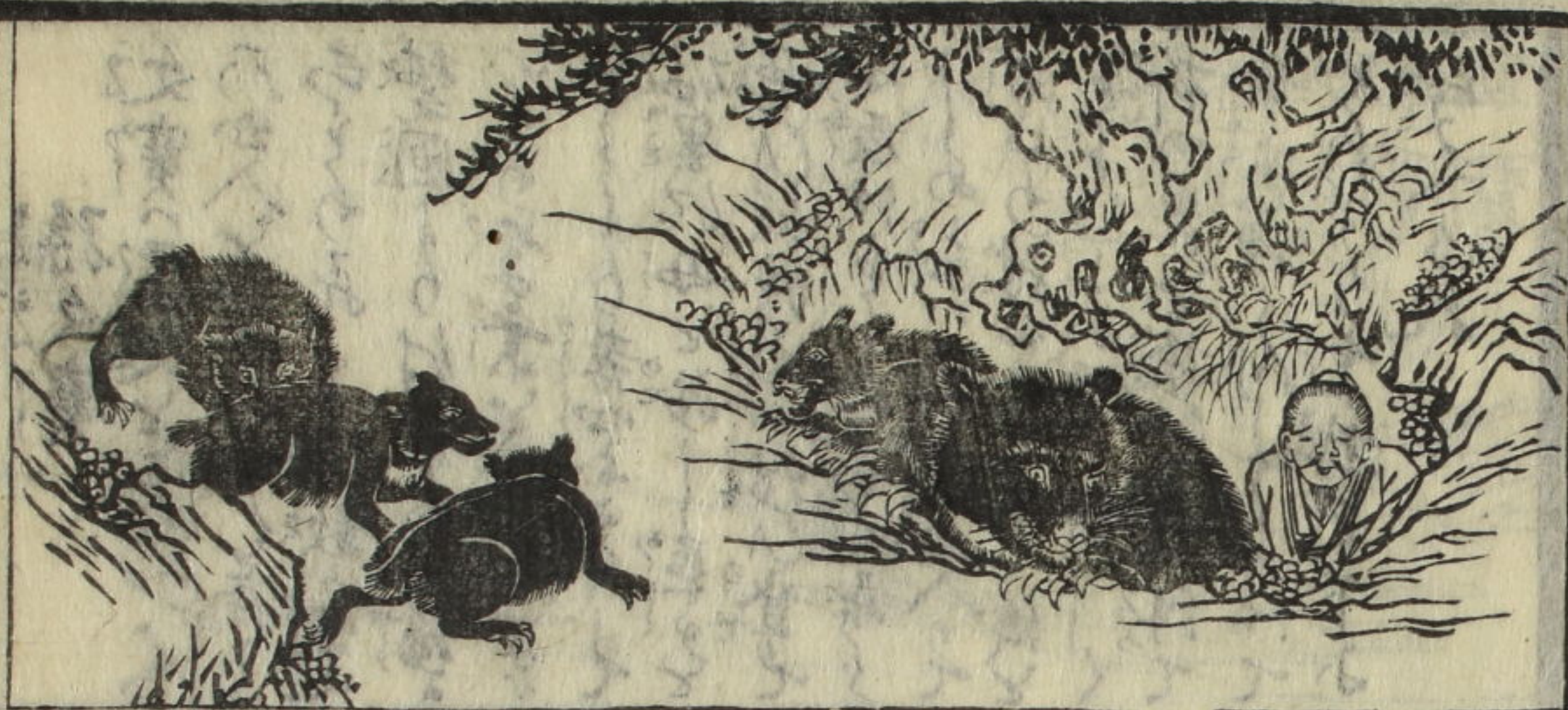
常林

魏氏常林字伯槐家
 貧乏で使ひたづなふのあつた
 されども他の家よりけり
 只己がより力加へて
 命をつなぎ天性そまを
 ぬふの礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり
 常林の礼は礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり
 常林の礼は礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり



知人等々々々々
 禮儀の礼は礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり
 常林の礼は礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり

礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり
 常林の礼は礼と感て山井に
 ありてき耕種をせり

[illegible]

あはす^{ひんせん} 負^{れいぎ} 穢^し 多^た 禮^{れい} 威^き
知^ち る^る を^を お^お 誼^ぎ づ^づ つ^つ
ふ^ふ う^う ぬ^ぬ の^の 先^{さき} ぞ^ぞ た^た れ^れ
抑^{おさへ} も^も 掛^か け^け ば^ば 盡^{じん} く^く
飾^{かしら} ま^ま げ^げ の^の わ^わ て^て 面^{めん} と^と 入^い

持^{さく}もみ^{もみ}と引^ひ添^{そへ}
 祝^{まじ}儀^ぎに酒^{れい}錢^{しゆ}用^{もち}は
 酒^{さけ}つぐ法^{ほう}氣^き虎^ことる尾^び
 中^{ちゆう}座^ざら撰^{せん}乃^のを向^{むか}ふ
 海^{かい}に出^{いで}入^{いり}無^なそあ^あん

文寶へ學文とこの人
 乃出入といふと人
 ちとて我々の源数
 楚國よりけり
 いふ學業と
 孝心ふ
 故里に母と姉
 吾びに法をふけい登
 小屋清とめあ
 一めおの學寮ふ入
 加ふと球を多
 柳の葉と拾ひて編
 舟を浅く
 それより學材天下
 字へえ

A black and white woodblock print illustration. In the lower-left foreground, a woman in traditional Japanese attire is kneeling on a grassy bank. She is leaning forward, washing her face in a small, round wooden bucket. Her hair is styled in a bun. To her right, a large, leafy tree with a thick trunk stands on the bank, its branches extending over the scene. The background is simple, with a horizontal line representing the horizon and some distant foliage on the left. The overall style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.

豐直守第

元徳秀
 唐元徳秀神童なり
 時兄早死より母事
 幼子と産二月の好嫂亦
 配け惜とふゆも母がく
 元徳秀つゝも抱て至夜
 哀とあり乳房と含て小
 児の泣と止ありに十日計
 乃ち乳汁出てて後
 故元徳秀成心ありと
 天地神明と感て母の事
 湧きて人皆奇異の思ひと
 なりて遂に母を惜と成
 ちて徳秀魯の代官
 となりて心慮直に成
 たりて民の徳沢に
 被ふゆりて謡ふとあり

き
 其の上下とてつ
 陽をも上る用也
 理
 物と徳れたの
 添たる
 理
 物と徳れたの
 添たる



我は用を
 あはふ見乃時
 其と右の
 あつと知れ
 おれつ福

陳榮

建州の陳崇字の希仁處
 貧して亡首する母と抱て
 孝りをつけて天に祈り
 遂に兩眼を用きり水
 樂の中へ建の地洪水
 ありて廬舎皆漂ひ
 流きて陳崇母のみを
 救て一舟のなかへ身を
 かくれりとしてむりそ
 む郡れを獲の夢を神
 人よりてけり身と職
 出に彼所救ふたると
 りかきんくおし後ま
 子細ふ母とありて母子
 ともに恙なくにすけ
 たり



尺半寸五分

兩
 手
 持
 心
 在
 心

時々
恰今
終乃

沖
 角かく
 志し
 其その
 の
 西リ
 征せい
 清せい

三分二は向へてあつと

おつ
おめ

持世長子

あまぎ
ふら
うへ
い
ふれふ人

け
 もの
 と
 か
 お
 えん
 持
 系
 心

多岐
 下
 礼
 多岐
 人の

乃ん為に今ふけそ

温公宋軫の大儒なり
兄伯康よりて友なり
とも厚く半八自友て
父ふ孝するよりて嬰兒と
育すよりてつひに食
みてをばらけられハ猶
こゝろかや思ふも
重に思へる昔とて
夜ふすことかや
同く兄弟を敬愛
とてきりて奉事
すはふを新め



出^い_たる魚イサナ 煮^に_りて食ふタビマク

ふはぬおひしとてえ

又^{また}これ飯合^{あきあじやを}此^{こゝ}ぬ

ものなりー 煮^に_りて食ふタビマク

白^ち_ろくつゝ 雨^り_{やう}て

葡萄^{ほぶく}て物^{もの}とさげそ
 侍^そ時^{とき}孫^{まろ}り孫^{まろ}近^こ
 少^すはへ一^い君^{きみ}とて物^{もの}を
 給^{たま}ひなは梅^{きり}柑^{かん}とて
 柑^{かん}けつ^{かくてい}を核^こ蒂^{てい}ハ袂^{さそ}ふ

范或張劭の学をふして大
 學を實り入て勤くりて
 師の罪を償てなふ爲る
 范式張劭のいりて曰二年を
 して又學校におりて
 節足下れおる立書對面
 すべしと云ふ時見張劭
 あり好賢約の如く
 張劭母小苦く張と相范
 或より云ふと云ふは母自ん
 二子の別といひ去後を
 此ある約張をいふ定かに
 范或もさるるれと張劭自
 復するなりと母相范或
 を相て休たり榮れと云
 日と云ふ范或より實と
 なり



納むおさや御ごあふぜんはいで
 志しやかふすこありそ
すこやう連ふそれ史曲きく徒れいふふなる
さぐ梅うめはもの物むねあふ
さぐ梅うめはもの物むねあふ

歌に目くら下へら
つゝ嬌なをく
是もも是もは
治免すけれ両手
嬌小星智いふ川？

閔子騫

皮子寒いといひて母を
 けりたり又又書とり
 たり二人の子をけり
 書けり子深くききて
 継子深くききて
 意に極まりて意に
 てきせざる也所も
 極まりてとて又後の
 書と云んと云れり皮子
 寒いといひ今書とり
 三人乃子をもけり
 去るをけりて意に
 二人の暖なりと云
 父と母なり是と云
 継母もけりて意に



座やふかたひを席そのせきと
 恋こひは魚うい一又相あひれと
 あまともは野のなれ
 祈いのち沉しずまかゝあれ
 祈いのちも世もにほふ

心なりをなすまふ
あのもはまはるかふ
目とそで其をも
やもにふへくさふ
むらけは腰と膝と

なるをある時山中へ萩とて
 ふけたり母留るあり
 けるにふくまぬ事なり
 是ふもあつてありども
 曾参の内にあはれしより
 遠くづいけれ叶はぬ曾参
 が海にそみゆたき海
 かかり曾参山に萩と拾ひ
 めるが儼おむかひさう
 けるゆゑにいそぎ家なかり
 にまば母ありすゝめつゝ
 かりたりかくのちく指を
 うえらるがききふらんこり
 孝りふして親子のかさは
 ふくにあらなりと歎いて
 曾参此事ハ人ふりて
 あろとのよ乃いと人を
 あくふきこらるるべし

A black and white woodblock illustration from a Japanese book. On the left, a man in traditional robes sits on a raised wooden platform under a pine tree, writing in a book. To his right, another man in traditional robes stands, holding a bundle of reeds or straw. In the background, there are stylized waves and a distant shoreline.

すわれと膝をほめて
 旅の途中でわきて
 別れる人ゝあゝ
 其方の足と先きと
 進んで熱で礼儀の

漢は文帝、漢乃言これ
 子なり母太后
 孝行之万れ食事
 まつせり時をみん
 帝やど仁義とおかひ
 孝りあるけりけり
 孝りれ乃上二人より
 民やあるきゆくと
 しも才ふ行ひやふ
 あり四百余州乃天
 乃てくのとこの
 法をわがまかり
 ありしをさるは
 代もやうに民を
 万をたのし
 はん



あやなれへ信あり
涙の折ゆふもふ
おもひとふまはなれ
れい
れい
あや
かあめ
文う要ありとて

時道と見事い候て
 是と先登んまゐる
 急成時の草のまゐ
 此道は貴人ふ献との
 そのものに次ぎて

孟^{モウ}子^コの如^{ごと}く父^フを孝^{コウ}
 乃^ノ母^ボとや一^{いつ}なり母^ボ年^{ネン}
 老^{ロウ}ふやといひり食^{シキ}味^ミも
 しむこかりぬ
 かきおれのおありなれ
 るあふ竹^{タケ}の子^コや
 之^{これ}り別^{わか}て字^ジ竹^{タケ}林^{リン}
 そしむれ雪^{ユキ}ふうさそり
 かんるあまうぬやもくた
 を新^{シン}大^{ダイ}か所^{ショ}を竹^{タケ}り
 よりせむいなる西^{サイ}小^コ餅^{ホウ}り
 大^{ダイ}地^チをうけて竹^{タケ}の子^コ生^{ナマ}
 あより大^{ダイ}ふよりうに利^リ
 乃^ノて海^{カイ}りあつたふはり
 母^{ハハ}にあふれを合^{カッ}で
 孝^{コウ}やんぐえ天^{テン}うめたり

合升二
民明淵藏

A black and white woodblock print illustration of a man in traditional Chinese attire, including a conical hat and a long robe, walking through a landscape. He is carrying a long staff or pole over his shoulder. The background features stylized trees and foliage.

八十三
昆明開藏

姜詩

姜詩母ありる之
母はふねのうらな
るものやれ勝とこのあり
姜詩は母をてて七
歳と居たてあるの
くちめ又魚れ勝と
ふてめてあて又婦
常ふすつてりある
姜詩家のうらな
いで船の中へ入
これとありて母
あててりある
きつて母のあり
ふてて姜詩の
かりとて天
あてふふふん



さけ
さけ
さけ

君前
君前
君前

山田
山田
山田

水
水
水

さ
さ
さ

魚類
魚類
魚類

海
海
海

を
を
を

向
向
向

横
横
横

唐武宗京讓々母鄭氏と
やめめとあり幼子とて育て
學の文とかなを學ぶ一き
をさしとて教りありある時
家の垣を越れ地窟り
あや一そとをかくのく
れふ孫あり中ふ孫殿
万とつとて鄭氏天子
向て書いとて書きとも
ふとてて銭家とてつハ
財れつとてひる家座一
天道とてあふ員得た
あそとてあふ子の書文と
財れとてあふ子の書文と
たふとてあふ子の書文と
そとてあふ子の書文と
そとてあふ子の書文と



足ふちばむでふ要し
 同第の書月松目よ
 恰合とあるや宣き
 方とあるや一折れの

源はあゝ新ふ
 礼記乃ゝ
 大略
 又内訓の本文

唐史人たるも年若く
 常^{つね}に食外^{じくがい}齒^は子の^この^のと^とこれが
 阿^あさ^さとふ^ふを^をけ^けり^りと
 外^がより^{より}け^ける^るや^や一^{いっ}ひ
 たりぬあ^ある^ると^とた^たる^るも
 目^めづ^づく^くひ^ひつ^つて^て死^しな^なに^に死^し
 せん^んと^とあ^ある^る一^{いっ}門^{もん}一^{いっ}家^けを
 あ^あり^りあ^あて^てける^るあ^あと^とき
 唐史^{たうし}人^{にん}の^の死^しと
 報^{ほう}せ^せる^るに^に死^しせん^ん
 我^わ孫^{そん}唐史^{たうし}人^{にん}の^の
 考^{かう}を^を字^じば^ばあ^ある^るに^に来^き
 ち^ち昌^{しょう}と^とい^いひ^ひたり
 ち^ちに^に好^{こう}み^み考^{かう}り^りな^なる^るを^を
 ち^ちに^にし^して^て人^{にん}に^にを^を
 ほ^ほめ^めたり^りと^とい^いふ^ふに^にも^も
 す^す名^な昌^{しょう}と^とい^いふ^ふに^にも^も
 かん

座席ざせきを設しやうけをぬく
をのぐこ振ふくつをぬく
婦よめの舅こ姑こふ事ことする
父ふ母ははふまぬふこく
ふこの舅こ姑こふ事ことする



宋北范文正公乃子
純耳婦持要さうき
きいふれ傳婦花乃
鑑撰に鑑うけしおも
緒をとり出正公是を
よく吾家法儉あて
妻優さふせぐあかあ
婦とあふあかうあ乃
法とさふべうげと子
て昂火をさうて四維
慢を危あて禁
められうとなん



ありは氣をおさけ
 智と悟と——もふ夜の
 燐さきさびうゝひて
 痛と瘡とわやと惟
 弱ひく抑搔せよ
 ありは氣をおさけ

今^い志^しを^をふ^ふそ^そ耐^たら^ら
 先^{さき}ち^ち後^ごに^に技^ぎ持^ぢ成^ぢ
 鹽^{しほ}を^を進^{すす}み^みサ^サヤ^ヤ成^ぢる^る
 少^{せう}者^{しや}衆^{しゆ}と^とさ^さけ^けつ^つ
 中^{ちゆう}者^{しや}ら^らの^の成^ぢ捧^{ほう}つ^つ

楊やう多たへへととりり此こ父ちちととり
 吾われ父ちちととりり此こ中なかつににりりふ
 楊やう音おん父ちちれれ今いまととりりああん
 ここへへああそそううととりり虎こととああひ
 ここへへああそそううととりりききれれとと
 かなかなへへふふれれ天てんふふああそそううととりり
 おおひひ祿ろくががつつハハわわ余いととりり虎こふ
 街まちととりり父ちちととりりたたけけああそそううととりり
 一いちふふののりりととりり天てんととりり氣き
 せせひひののいいけけふふややいいまま盛さかで
 たたけけ形かたちととりりととりりととりりととりり
 せせ虎こ像ざうにに尾びととりりととりりととりり
 けけととりり父ちちととりりととりりととりり
 人ひとととりりととりりととりりととりり
 家いえににくくれれりり是こゝととりりととりり
 孝かうりりれれととりりととりりととりりととりり
 也やととりりととりりととりりととりり



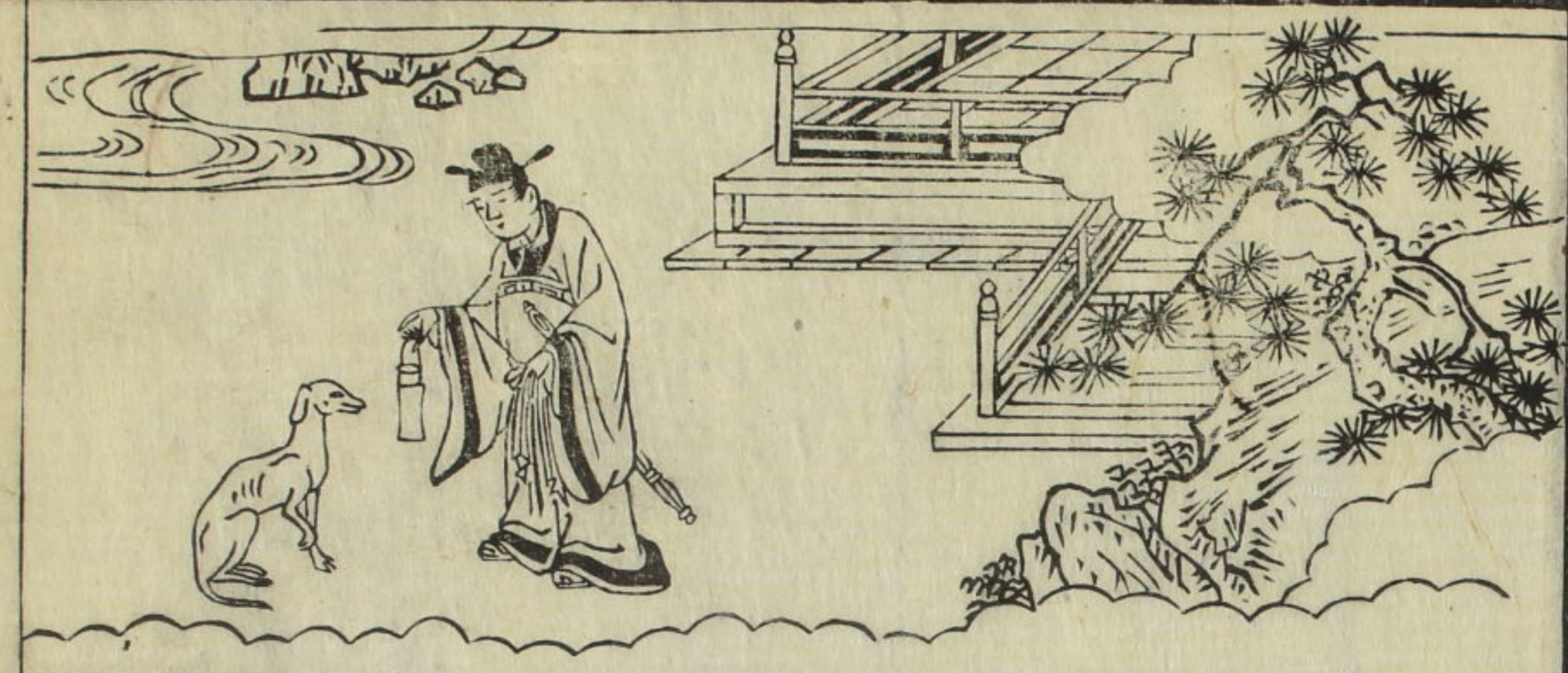
あゝあゝさうぞ
ほふおあひ
てぬい さげ
と拭と指すりて
まゝゆせはもの
うか
同じすむな一夢
こゑ

ところ
 そのこゑ
 かゝ
 るに所ル其聲と形
 な来やまのけしき
 そあうて
 見さうん様ふ父母れ
 かとちて
 あまへ
 あ
 ふか
 さむき
 尔もみのをる乳々

陸機

西晉乃陸機字士衡
 弟長七尺一寸
 文章世冠
 陸雲六弟
 純一兄
 名王顯
 謀反
 人
 陸機
 竹
 乃
 人
 乃

あきふ其の思を
 すー朝タハ
 それの法を
 どのみぞ
 外面に出るまで



あふべ只今
 志と申ハ
 申くさ
 中習
 業をほく

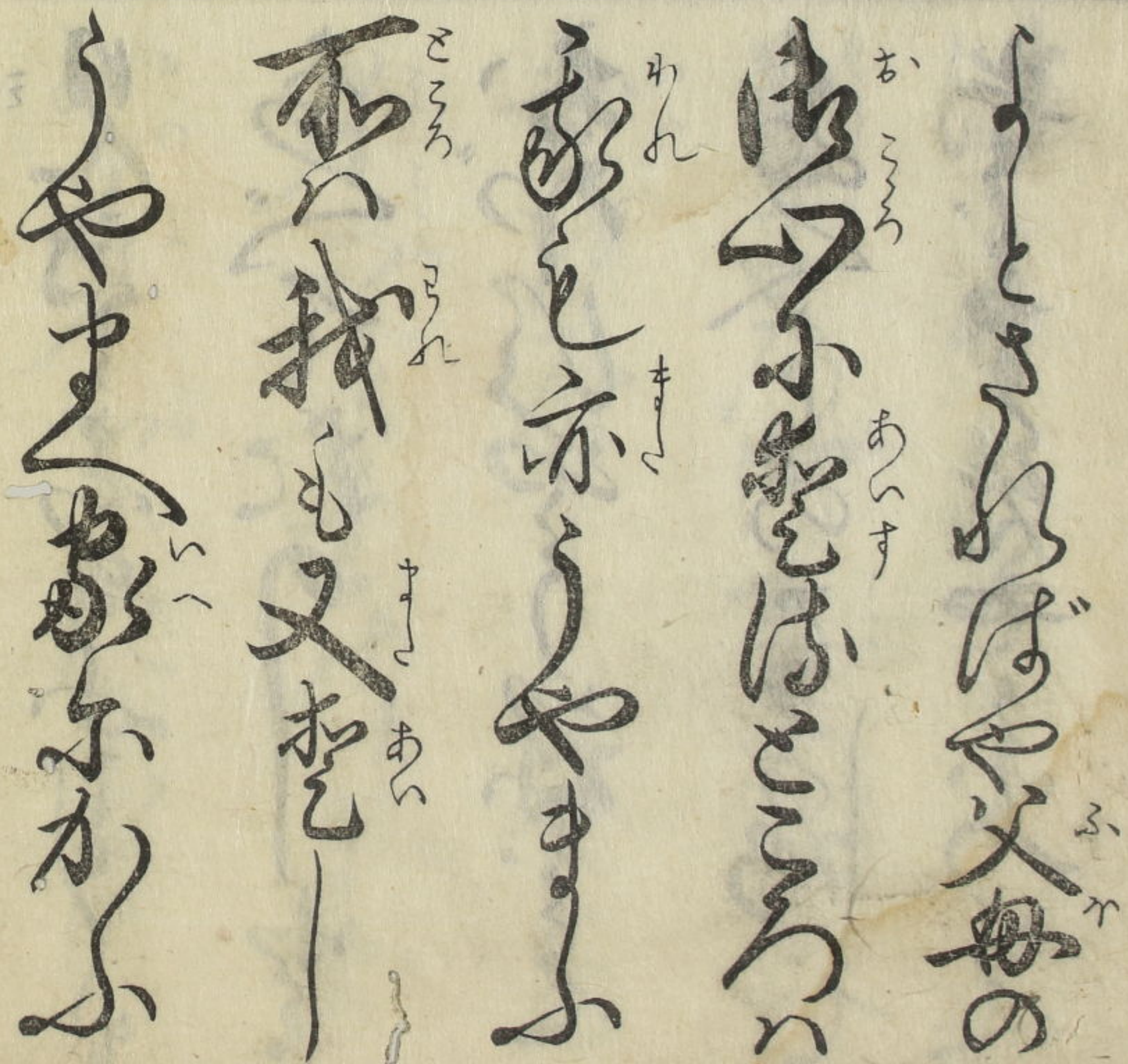
董永といふけふの世にあり
はなれぬ妻にしてつひに
人おとられそらんをたて
日を送りゆく父老てより
たゞる小車とゆへしとば
葉で隠れあむにおいてまゐり
る時父ふとこれを見れば
その女をきてぞとて耕足
千黄ぶきとて華礼をとと
くはるねは徳川のえり
けりなり一人の男あり
あやめのお董永が妻ふ成
屋一と廿あり一月ふかとり
結二百文ありてその或へ
それいづもこれをかりて
董永かこを母たりそ
のちぬ人董永ふかありん
つれ天上れとてひめあるなり
風をうけてもとて天へ上り
つれのせめてとて天へ上り
けるなり

是ありありとんん
 曾子乃御言ふ孝子の
 走^あ成屋^い——なふその
 身^{こころ}に成^{こころ}をみ^{こころ}か^{こころ}
 其^{そのこころ}身^{こころ}ふた^{こころ}子^{こころ}は



見きてまゝふりて
あてたの
おややうな
あゝあゝ
さゝあゝあゝ

用世代乃末孫叔姁ハ少
 ときよりちりてお姁の姁と
 云ふ所姁てあれと云ふ
 姁の姁をいふや
 叔姁といふは姁の姁と云
 者ハ死すも今姁と云ふ
 ちりてハ叔姁事ことと云
 ば姁んと云ふれと云姁今
 いばくふりある叔姁いと云
 他人のまこと人ことと云て
 ちりて是と云と母れ曰
 子ハ隠人ハ及ハハ害
 なくと云果てはと云
 なくと云命はと云は王
 及て姁姁此政及と云
 さと云姁大ハあふりと云
 いと云姁姁もふと云
 十世に及て姁姁と云



豐道皆弟

朱壽昌

朱壽昌の七十五のとき
 父を母とさうりたりたれ
 中毎とくちをうりたれ
 け事をなげくも後
 おいざ事年
 おいざ事年
 人ありとくちをうりたれ
 すくきふともすきふ
 とくちをうりたれ
 とくちをうりたれ
 とくちをうりたれ
 小天といふくちをうりたれ
 ばくちをうりたれ
 ふはくちをうりたれ
 りくちをうりたれ

あれは此體の髪の色
 少くもくちをうりたれ
 事ふくちをうりたれ
 やくちをうりたれ
 たるくちをうりたれ



名と後の世父母
 くちをうりたれ
 とくちをうりたれ
 孝のはてくちをうりたれ
 親とをくちをうりたれ

名おありはと 福小あ 子こ 糖と ぶぶ ぶぶ
 あんぢい 女め へへ 之の 氣き づづ ぐぐ ぐぐ
 家い まま ささ に 来き れれ うう こ 法は だだ
 と 法は ぶぶ うう 何なん の 也や ぞ
 氣き づづ ぐぐ ぐぐ 人ひと まま 家か ぞ
 小こ 曲まが ぶぶ 東ひが ぶぶ うう ぶぶ
 堂どう 法は ぶぶ ぶぶ ぐぐ ぐぐ ぐぐ
 なな うう こ 法は ああ うう ああ なな ぶぶ
 ぶぶ うう ぶぶ ぶぶ ああ うう ぶぶ
 こ ちち ちち ぶぶ 東ひが ぶぶ うう
 ぶぶ も ああ ぶぶ ぶぶ ぶぶ ぶぶ ぶぶ
 ぶぶ ぶぶ うう ぶぶ ぶぶ 人ひと の
 ぶぶ ぶぶ 過あやまち ぶぶ ああ ぶぶ ぶぶ ぶぶ
 ぶぶ ぐぐ ぐぐ ぶぶ 人ひと の まま ぶぶ
 と ぶぶ ぶぶ ぶぶ ぶぶ ぶぶ

人^{ひと}の良^よくを^をと^とす^すべ^べ
 以^もた^たず^ずす^す天^{あめ}地^{つち}
 聖^ひ々^り御^{おん}教^かを^をも^もふ^ふ
 そむ^そむ^むの^のや^やの^の
 田^い作^{つく}り^りあ^あさ^さむ^むひ^ひ業^{わざ}と



一 我々のやう
 心づいてふいふ
 かたからくるす
 それを親とせず
 他人とせず 我々

呉猛ハ八歳さいふゝて孝うやうやある
 人なり家いへまへあつて
 後ごに父ちちを失うしなはるる
 されば甚うれにありをれども
 惟い帳ちやうもかゝ一ひと 呉猛ごもう自みづから
 衣えとぬぎて親おやふを家いへ
 かにあづかいふと教しふにせ
 るるが故ゆゑも孝うやうやなり
 親おやを失うしなはるるに思おもひすな
 ちつしも親おやをすかむる
 かにたり我わが身を助たすけしを
 徳とくありと母ははのやうなふ
 ちとけえととなり切きき
 ものかやふ孝うやうやひハ
 ふ ぎふなり
 といふなり

A black and white woodblock-style illustration of a man and a woman in a mountainous landscape. The man, wearing a traditional cap and robe, is seated on a raised platform, leaning forward. The woman, also in traditional dress, is seated next to him, resting her head on her hand. They are surrounded by steep, rocky cliffs and a body of water in the foreground.

禮道皆梯

孟子

孟子の初々の母の墓小
 近一孟子幼少のなむれ
 小踊躍築^{ヤクダツキ}に人々^{ひとら}を
 わざとせしむ母これ^{こゝろ}を
 室^{むろ}にありて市の傍^{かた}に
 舎^やにありて孟子こゝに商
 賈^{カハ}詣^よ街^{まち}とておふ愛^{あい}を
 せしむれとせし又是^{こゝ}も
 孟子とてありありと
 文^{ぶん}而^に才^{さい}方^{ほう}ありて孟
 子又揖讓^{いせつじやう}を返^{かへ}て礼^{れい}を
 うやまひ已^やと早下^{はやくだ}し禮^{れい}
 義^ぎとふくすて人々^{ひとら}
 らも母よりこゝにありて
 りて墓^{はか}をさなりとつね
 居^い取^とと定^{さだ}められり母
 子學校^{がく}に入^いてて勉^{つと}め
 らるゝふく母のつとめ

力^{ちから}ありてきりえ
 公^{こう}子^しふ礼^れ儀^ぎなく
 友^{とも}とちの^{なり}中^{なかつ}やこと
 なく又^{また}もふを
 毎^{まい}ひふいのちを

長^{ちやう}ド^うと^やと^ま子^こ答^{こたへ}
 ていそくおのこくなり
 とその冊^{さふ}織^{オリ}からと
 機^{ハタ}れきの刀^{やち}をとんて
 うちきうてそ^{その}方^{かた}がま
 学^{ガク}文^{ぶん}を未^{まだ}熟^{じやく}して
 に^く論^{ろん}こ^{この}ハ^はおけ織^{オリ}の
 とげさばてきふ
 くとさうて怒^{いかり}を
 一^{ひと}の^ふ孟^{もう}子^ことら
 ちそ^それで且^{かつ}言^いきんか
 ちとらひなりて
 はあふ名^なを天^{てん}下^かり
 あげあり

ちみ勇むに
 志すべし五つの不
 考^かふ事^し三千^ちり
 あはれは罪^{つゝ}とふ
 か^なれ中^ちふ事



才一聖乃作
おの道きり

抑^{おさ}毎^{まい}い^いま^まふ^ふと^とは^はと^とえ^えず^ずな^なま^まの^の
 お^お後^ごと^とく^くえ^えび^びや^やの^の昔^{むかし}の^の
 迹^{あと}ふ^ふか^かり^りい^いま^まの^のさ^さの^のう^うて^てら^ら
 い^いま^まの^のさ^さの^のう^うて^てら^らと^と候^うん
 人^{ひと}乃^のの^のけ^けく^くひ^ひー^ーむ^むの^の
 こ^この^のあ^あの^のめ^めく^くわ^わち^ちの^のひ^ひあ^あり
 木^きの^のま^まの^のう^うて^てら^らと^と候^うん



りひくたふやふん
 いれふりふぬ
 うかひくものなり

尾陽城南醫隱

田島池龍養元



謹述

書肆 福原典則

49-1917

〇七

樂天堂

佐藤了

藏書